

平成20年第1回定例会（3月）一般質問（要旨）

（1）一般ゴミ処理方法の今後について

質問・宮下

月形町では資源ゴミ以外の一般ゴミ（生ゴミを含む）を全量埋立処分している。これまでの分別や有料化等の努力で、現在の処分場は平成26年まで使用可能であるが、新たに設ける処分場は一次処理したものしか受け入れられなくなった（法律の改正等による）。

町では南空知地域ゴミ処理広域化検討協議会に参加し、焼却炉による「生ゴミを含む一般ゴミ全量を焼却処分する」方向で検討している。しかし全量焼却には以下の問題点が考えられる。

1. ゴミ量（＝焼却炉の規模）を決めることが難しい

[減少要素]

- ▼過疎化や高齢化に伴う急激な人口減少
- ▼広域協議会から離脱する自治体ができる可能性
- ▼ゴミ減量化運動の成果

[増加要素]

- ▲広域化による分別基準・意識の低下

2. コスト（経費）の増加

- ▲広域化による運搬コスト（運搬車の燃料、増車）
- ▲ダイオキシン対策（特に収集量が計画量を下回った場合）
- ▲維持管理費（均等割は小さな自治体に負担大）
- ▲環境政策（環境税・排出量取引等の導入が予想）

3. 現行政策との矛盾

- ◆分別によるゴミ減量化、生ゴミ処理機等への助成との矛盾
- ◆環境を柱にした、町長の姿勢や施策との矛盾

これらを踏まえた上で、ゴミ処理方法の今後について町長の考えを伺いたい。

回答・町長

平成9年、ダイオキシン対策のため広域化によるゴミ処理を国が推進。南空知11市町村が参加したが、様々な理由により現在は5自治体（岩見沢、美唄、三笠、夕張、月形）になった。

このゴミ全量焼却について指摘された問題点は認識している。省資源、再資源化は重要とも考えている。生ゴミに関しても有効な資源ととらえ、飼料化や堆肥化なども検討していきたい。

今後、ゴミに対する基本姿勢を詰め直していく。

質問・宮下

今後のゴミ処理に対する私の考えについて、町長の感想や意見を伺いたい。

a.ゴミ減量化の取り組み強化

（ただし、高齢化の進行する将来を見すえ、分かりやすい分別基準を作る）

b.将来的な処理方法の検討（バイオガスプラント等）

c.生ゴミ以外の一般ゴミを減量化する一次処理方法の検討

回答・町長

(a)は既に指示を出している。(c)は関係機関の皆さんの意見を聞きながら検討していきたい。

(b)バイオマスエネルギーとしてのメタンガス利用は今後の検討による。ただし月形町内の生ゴミ量で成り立つのか疑問。平成20年度「地域新エネルギービジョン」を策定するので、地域全体としての方向性を確立したいと考えている。